まとめと要望

今回実施した受験生と教員に対するアンケート調査を、本委員会としては以下のようにまとめた。

1. 第 103 回医師国家試験に関して、評価できる点として以下のものがあげられる。

1) 新形式問題の出題および試験の時間割が事前に受験生に知らされ、全試験問題と正解、採点調整などの情報も公開されるなど、国試の透明性が維持されている。
2) 医師国家試験にふさわしい適切な良問が多く出題されている。
3) 難問、設問や選択肢が適切でない問題、等が受験生に不利にならないように適正に取り扱われている。
4) 国家試験の成績が在学中の成績と良く相関している。
5) 概ね良好な受験環境が用意されている。
6) 良好な合格率が達成されている。

2. 第 103 回医師国家試験に関して、更に改善すべき点として以下のものがあげられる。

1) 学生にとっては難しい問題、設問や選択肢が適切でない問題が依然として散見される。
2) 国家試験の問題を解くのに最も役立ったものは模擬試験や国試対策講義であったと考える学生が相当数いる。これは、大学での学習がそのまま国家試験に結びつかない現実を反映しているもの思われる。

3. 医師国家試験について、以下の点を要望したい。

1) 資格認定試験として適切かつ良質な問題を出題するよう、引き続き努力していただきたい。
2) 試験に関連する情報の公開を継続していただきたい。
3) 卒前および卒後の一貫した医学教育の中に医師国家試験が位置付けられるよう、文部科学省、厚生労働省、および全国医学部長病院長会議が一体となって医師国家試験のあり方を再検討していただきたい。

おわりに

第 103 回医師国家試験は、新しいガイドラインに則って行われた最初の試験であった。6 肢以上の多選択肢問題、計算問題、X3 問題などの新形式問題が出題されたが、このような問題が出題されることは事前に学生に知らされていたのと、現在の受験生はこの種の問題は CBT で既に経験済みであることから、混乱もなく試験が実施されたようである。合格率も 91.0%と過去 10 年間で最高の数字を示した。しかしながら、アンケート結果では受験生と教員の「満足度」は中くらいであり、これは難しいと感じられた問題が多かったためではないかと思われる。

今回のアンケートでは、「医師国家試験は、臨床上必要な医学および公衆衛生に関して、医師とし具有すべき知識および技能についてこれを問う」という医師法第 9 条を示し、医師国家試験のあり方について学生と教員の意見を聞いた。学生からの回答では「現状のままでよい」との回答が 60.3%であったが、教員は 35%であり、半数以上の教員(54%)が変更すべきである、と回答した。どう変更すべきか、の質問に対しては、技能を問う試験として「共用試験 OSCE のように全国の大学が互いに協力をして実施する実技試験の導入」との回答が多かった。しかし、個別のコメントでは人的また予算的問題を指摘するものが多く、これ以上の負荷を教員にかけるのは無理である、との意見も多かった。

学生に対して「国試問題を解くのに最も役立ったと思うもの」を質問したところ、模擬試験や国試対策講義との回答が大学での講義や実習を上回った。昨年のアンケートでも、学生にとって国試対策が重視されている現状がうかがえたが、その原因が「知識を問う」医師国家試験にあることは間違いない。卒後臨床研修の見直しが行われ、それを踏まえた医学教育の改善について検討会から取りまとめが示されている。医学教育の改善を実質的なものにするためには医師国家試験の改善は避けて通れないテーマであり、関係各位の間で十分な検討をしていただきたい。

当委員会としての活動には限界があるが、今後とも全国の大学の教員のご意見をうかがいながら医学教育と医師国家試験の改善のために微力を尽くしていきたいと考えている。今後ともご支援ご鞭撻をお願いしたい。

アンケートにご協力いただいた全国の医学部と医科大学の教職員の方々、受験生諸君、全国医学部長病院長会議の長田正昭事務局長、鳥羽清乃主任、アンケートの集計を担当した埼玉医科大学医学教育センターの斉藤恵助手に感謝申し上げたい。